

人感知センサーで高齢者の安否を確認 「高齢者あんしん見守りシステム」 利用者を随時募集しています。

市は、一人暮らし高齢者の見守りを強化するため、「あんしん見守りシステム」を設置しています。同システムは、体調不良などの緊急時に助けを呼べる「緊急通報装置」と、人の動きを感知する「安否確認センサー」を高齢者宅に設置し、一定時間住人の動きがない場合などに、受信センターである「見守りセンター」に通報するものです。受信センターは、近所の知人などに安否確認を要請するほか、状況に応じてセンターの職員が現場に駆けつけ、消防署に連絡します。同システムの設置と相談の費用は無料です。対象となるのは、市内に在住の65歳以上で、一人暮らしか高齢者だけの世帯です。利用を希望する人は、市役所2階介護保険課(☎321-1250)か各支所市民福祉課へ問い合わせてください。



緊急時に受信センターに通報できる緊急通報装置

人の動きを感知する安否確認センサー



インタビュー

群馬県介護支援専門員協会高崎・安中支部長 中西 有美子さん

徘徊高齢者のいる家族の安心につながります

徘徊する高齢者を在宅で介護している家族の苦勞は大変なものです。24時間ずっと見守らなくてはなりませんし、夜に徘徊するかもしれないの

で、安心して眠ることもできません。

私が担当している高齢者の中にも、徘徊して行方不明になってしまった人がいます。家族と一緒にその人が行きそうな場所を探しますが、行き先が想像できないと、探し手立てがありませんでした。周りの人に気付いてもらって保護されればよいのですが、すぐには見つからず、何日か後に不幸な姿で見つかったこ

ともありました。GPSを付けてもらえば、居場所がすぐ分かるので、そんなことも防げます。家族にとっても、すぐに探せるというのはすごく安心感があると思います。

GPSが小型で靴に付けられるというのもいいですね。出掛けるときに靴を履くのは習慣ですから。新たに何かを持たせるのは難しいですが、これなら抵抗なく使ってもらえると思います。

徘徊する高齢者を迅速に保護するため

高崎警察署と協定を締結



富岡賢治市長(左)と小林政夫高崎警察署長

市と高崎警察署は、「はいかい高齢者救援システム」の運用開始に合わせ、9月10日に「認知症高齢者の徘徊対策に関する協定書」を締結しました。同協定では、GPS機器を携帯する高齢者が所在不明となった場合、市は家族らの同意に基づき、必要に応じて高齢者の位置情報や顔写真を警察に提供することが定められています。



はいかい高齢者救援システムを開始

徘徊する高齢者の居場所をGPSでお知らせします

市は、徘徊して行方不明になった高齢者を早期発見するため、10月1日から「はいかい高齢者救援システム」の運用を開始します。徘徊行動が見られる高齢者の家族や介護者にGPS※1機器を無料で貸し出し、高齢者が行方不明になった場合に、位置情報を家族などにメールでお知らせするものです。

問い合わせは、介護保険課(☎321-1250)へ。

※1 衛星測位システム= Global Positioning System (グローバル・ポジショニング・システム) の略



認知症による高齢者の徘徊が全国的に問題になっていきます。市は、認知症による徘徊などで所在不明になった高齢者の情報を「安心ほっとメール」で配信しています。昨年度に配信した所在不明の情報は55件に上りました。市は、こうした高齢者をより早く発見し保護するため、10月から「はいかい高齢者救援システム」の運用を開始します。

高齢者の位置情報をメールでお知らせ

この救援システムは、徘徊行動が見られる高齢者の家族や介護者に、小型のGPS機器を無料で貸し出すものです。機器を携帯した高齢者が所在不明になった場合、家族らの依頼を受けて、「見守りセンター」※2が高齢者の位置情報を確認。あらかじめ登録してある連絡先に、居場所の地図情報をメールでお知らせします。家族が発見・保護に行けない場合には、同センターの職員が現地に急行し、高齢者を保護します。遠方などの場合は、家族の同意を得て警察にも協力を求めます。システム